

平成 26 年 5 月 20 日
県立九谷焼技術研修所
0761-57-3340 担当：川浦

石川県立九谷焼技術研修所
平成 25 年度デザイン支援事業成果作品展
「進化する九谷～土を編む～」の開催について

石川県立九谷焼技術研修所では、毎年、若手の九谷焼作家のデザイン力向上を目的とした「デザイン支援事業」を実施しています。

この度、平成 25 年度に参加した若手の九谷焼従事者 14 名の作品の展示・販売をいたします。

作品をご覧頂き、若手作家のこれからの九谷焼の力強い息吹と可能性、新たな風を少しでも肌で感じて頂ければ幸いです。

記

1. 展 示 期 間 平成 26 年 5 月 27 日(火)～6 月 8 日(日)
 10:00～18:00 (最終日は 14:00)
2. 展 示 場 所 「しいのき迎賓館 ギャラリー A」
 (金沢市広坂 2 丁目 1-1)
3. 出展者・作品数 14 名 (別添のデザイン支援事業参加者課題作品一覧参照)
 約 200 点の作品展示販売

<参考> デザイン支援事業の内容等

この「デザイン支援事業」は、参加者が専門家のアドバイスを得て、現代のライフスタイルにマッチしたエンドユーザーが求める商品を目指して、新たな商品開発に取り組んできたものです。

ユーザーの求める志向は何か、作者の思いが伝わる作品かどうか、また、絵付けの美しさ・力強さ・繊細さなど様々な視点を念頭に入れ、試行錯誤を繰り返しながら、作品の出来栄も当初の作品から大きく成長して、今回のオリジナル作品に仕上がりました。

<商品改良アドバイザー>

陶芸家 伊藤 慶二 氏
デザイナー 山村 真一 氏

(参考)

デザイン支援事業参加者課題作品一覧

石川県立九谷焼技術研修所

No.	氏名	作品のテーマ	作品の思い	デザイン支援事業を通じて…
1	いのうえ まさこ 井上 雅子	「書と絵の融合」	〈流れるような墨の線に絵を加えたら、どんなに格好いいだろう…〉と思ったのが始まり。	字の形に合わせて絵を加えるのではなく、絵が字に見える…という方がよいのではないか？ この件については現在もなお考察中。
2	いとう ゆきこ 伊藤 由紀子	「水滴」「偏壺」	古風で趣きのある器に伝統的な絵柄という、九谷焼の美しさが映える様式を踏まえつつ「よく見たらなんか面白い」と思うような作品を目指しました。少しくらいあそんでも白い生地が品良く見せてくれるので、文様アレンジを考えるのが楽しく、磁器の持つ上品力に惚れ込むこの頃です。	手が遅く、作品を沢山提出することが出来なかったのですが、先生方の適切なアドバイスは勉強になり、また他の参加者の講評を聞くのもとてもためになり、励みになりました。 このような形で卒業後も研修所と関わりが持てることを大変ありがたく嬉しく思っています。
3	いなづみ かこく 稲積 佳谷	「蓋物」	蓋物の中が見えないという神秘性のある器だと思う。 形や模様で世界観を表現しやすいのでは！？と思い取り組んでみた。	形と厚みのバランス、切り口の形状などを改善、工夫した。
4	かわうち のりこ 河内 範子	「面」「香合」	動物(特に干支の動物)の動きや表情を香合で表現したいと思った。 動物のおもしろい魅力的な表情が表現できればと思う。	「干支の香合の場合」動物の形をただ水平に切り離して蓋と身に分けるのではなく動物の動きを生かす、変則的な切り分け方を学ぶことができた。
5	かわばた りえこ 河端 理恵子	「新しい赤絵細描」	興味をひく面白い九谷焼を作る。	赤絵細描を描く器は、繊細で凜としたものでないといけいけのでは、と思いつつも作った手びねりのいびつな器の赤絵細描に先生方から高評価をいただきとても自信ができました。 手びねりと細描という新しいオリジナル赤絵ができました。 ありがとうございました。
6	かわむら すみか 河村 澄香	「もっとトゲを生かす」	なんとか形にしていきたい… トゲのあるアイテムを… 色々思うのですがどうにもうまくできない… でもやっぱりなんとか前に進みたい… と 私の頭でずっとグルグルまわっています。	頭が柔軟でなく、用途と飾りの両方をぐちゃぐちゃに求めていた私に、用途あるものから頭を切り離すことをアドバイスしていただきました。 (どちらかにする) …でも、うまく出来ずに毎回悪戦苦闘です。
7	さかい みき 坂井 美紀	「自分独自の加飾の探究」	陶芸には様々な加飾方法があり、学校でも色々学びましたが、まだ自分がこれだと思える何かをつかめていなく、自分独自の加飾の探究をしていきたいと思い、これをテーマにしました。	制作過程では、色々な加飾方法、釉薬・化粧土・下絵・上絵で、又、土も変えて制作してみました。思いつきで制作したものが多くあまりにも方向性が違うものが多かった。最後にはいくつか絞って制作する事にしました。 これからは、それらを展開して行けたらと思っています。

No.	氏名	作品のテーマ	作品の思い	デザイン支援事業を通じて…
8	たかつじ 高辻 あい	「九谷焼の食器 ～普段使いしやすい もの、シンプルなもの 、古九谷などからヒント を得たものを考える ～」	食器制作にあたっての成形方法、加飾についてのアドバイスを頂きたいということ、古九谷など古典について、改めて勉強したいという気持ちがありました。	当初、絵付けについては古典柄の写しを考えていましたが、デザイン釉薬を変えるなどのアドバイスを頂き、テーマに囚われない色々な可能性が広がっていった気がします。 いつも絵を描きすぎかなと思っていましたが、もっと描き込んでもいいと言われたのが意外でした。 形は高台、皿の深さなどの具体的なアドバイスから、自分が普段あまり意識していなかった視点について気づかせてもらえました。
9	たけだ 武田 朋己	「自分の看板となる商品の制作」	現在、食器売場での展示が主になっているので、そこでファンになってくださる方を一人でも多く増やしたい。	「定番商品はこの三つくらいでいいね」と言われ、しばって考える事ができるようになりました。
10	なかがわ 中川 真理子	「ガーデンマスコットの制作」	陽だまりの中にこだまする笑い声、そんな世界を表現したかった。	大きくしてみたり、小さくしてみたりする中で、ベル・テーブルマスコット、一輪差など幅が広がった。
11	ひがし 東 早苗	猫作品、 「今までなかった発想。」	器でも「楽しい」がある。	
12	ふなき 船木 大輔	「やわらかい器作り」	水分を含んだ土の状態の生々しさ、艶っぽさが、出来上がりまで保たれればいいのですが…。	窯の中で土が軟化し、ゆがみやたわみを生じる事によって、「やわらかさ」を出そうと思った。 人の手で作る意味を見つけようと思いました。
13	はれがま 霽窯 しまだ 島田 章夫 でぐち 出口 かずみ 和美	「照明と吊り香炉」	照明にしても吊り香炉にしても、日常生活の中であって非日常を楽しんでいただくことを思って創りました。 より身近に置いていただいて、いろいろ創造したり、手に触れて楽しんでいただけたら嬉しいです。	吊り香炉: シンプルな形でしたが、より細部にこだわり、可愛らしさを出すため、頂点に小鳥をつけました。 照明: 能面を課題にしてスタンド型にしたいと思います。